

2013年2月14日

## 住友林業「HOUSE VISION 2013 TOKYO EXHIBITION」出展のお知らせ

住友林業株式会社（社長：市川 晃 本社：東京都千代田区）は、2013年3月2日（土）～24日（日） 東京お台場で開催する「HOUSE VISION 2013 TOKYO EXHIBITION」に出展致しますのでお知らせします。

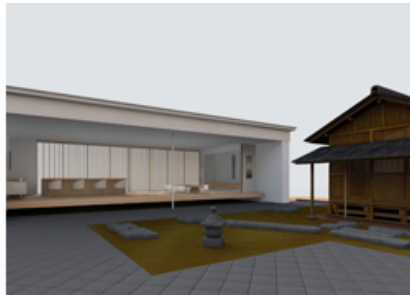
HOUSE VISIONは、グラフィック・デザイナーの原 研哉氏を世話人に「家」を多様な産業の交差点として見立てていくプロジェクトです。2010年より、「研究会」「シンポジウム」を通して、さまざまな建築家・研究者や企業、行政が対話を重ねてきました。

今回初の開催となるHOUSE VISION 2013 TOKYO EXHIBITION は、「新しい常識で家をつくろう」というテーマのもと、これまでの成果を共有し発展させ、諸分野を横断する大きな産業ビジョンを目に見える展示として具体化し、来場者の意識の覚醒を目指します。企業と建築家やアーティストが協働し、7つの展示ハウスを通じて新しい住まいのあり方を提案します。

住友林業は、現代美術家の杉本 博司氏に住居の設計を依頼。日本の伝統的なデザインを中古マンションの間取りに取り入れた「現代の数奇屋(すきや)」と、利休の待庵※をうつした「雨聴天(うちょうてん)」が誕生しました。伝統や美意識を日本の重要な資源と捉え、素材を通して表現しています。



「現代の数奇屋」空間イメージ



「現代の数奇屋」「雨聴天」の建築イメージ



国産杉材を活用した会場イメージ

また、隈 研吾氏設計による会場のメインストリート、手すり、共用テント内部は、一般的に国内に流通している105mm角の国産杉材を当社にて調達、施工を担当しており、展覧会終了後は東北の復興に役立てる材料としてリユースする予定です。住友林業は1691年の創業以来継続してきた、木を植え、森を育み、資源として活用し、使った分をまた植える「保続林業」の理念のもと、木を活かし、住生活に関するあらゆるサービスを通じて持続可能で豊かな社会の実現に貢献していきます。

※ 待庵・・・京都府大山崎町にある、東福寺の末寺妙喜庵(みょうきあん)の茶室。国宝。現存最古の茶室で、1582(天正10)年に豊臣秀吉の命によって千利休が作ったと伝えられる。隅に炉が切られた2畳の間と半畳程度の床、板敷き付きの1畳の次の間、1畳の勝手の間からなる。

以上

《ニュースリリースに関するお問い合わせ先》  
住友林業株式会社  
コーポレート・コミュニケーション室 飯塚・森永  
TEL 03-3214-2270